

## JOMF 派遣医師便り (2016. 9)

### ◆シンガポール◆

### ジカウイルス感染症

シンガポール日本人会クリニック

日暮 浩実

既に知られていますとおり、8月27日にシンガポールで国内発症第1例目となるジカウイルス感染症患者さんが確認されました。発表によりまずとシンガポール在住の47歳マレーシア人女性とのことです。この方のお住まいのある Aljunied Road が発生地区として新聞発表されました。この方は HDB といういわゆる高層の公営住宅にお住まいでしたが、その棟の写真が棟の番号と共に報道機関のネットに掲載されました。ほとんど個人が特定されてしまうような報道でしたので、かなりの違和感を感じざるをえませんでした。

それはさておき、この患者さんを見出したのは、この地区の一般の2人の開業医ですが、7月末ぐらいから、発熱、発疹、関節痛、結膜炎などの症状を呈する患者さんが、増えてきていたということでした。臨床症状には決して重篤感はありませんでしたが、8月22日、この2人の医師は、デングでもチクングニアでもないウイルス性と思われる疾患が増えていることをシンガポール保健省(MOH, Ministry of Health)に告知しました。翌23日、MOHは新規の患者さんを伝染病センター(CDC, Communicable Disease Center)に送ることを指示すると同時に患者さんの調査を開始しました。26日、前日25日から上記のような症状があると訴えた患者さんが来院され、CDCに送り検査をしたところ、27日にジカウイルス感染症と判明したものです。

既に同様の症状を示していた患者さんはリストアップされており、そうした方々を検査したところ、40名の患者さんが見つかったということです。報道からは、1日で急に新たに40名の患者さんが発症したかのような印象をうけましたが、これはこのような事情によるものでした。最初の例を含めた41例のうち、8月28日の時点ですでに34例は病状が回復しており、7名のみが、まだ臨床症状があったため、CDCに入院隔離されました。患者さんの多くは肉体労働者でした。その後、周辺の調査を行い、さらに患者さんが見つかりました。8月27日、疑い患者さんを診察した場合は、無料で検査できる旨の通達が当局から各医師に送られたことも、発見率を高めることに寄与したと思われ、その後患者数が増加していきました。8月28日から9月3日までの今年の第35週の患者数は215名となりました。他の地区でも集団発生した地区が見つかり、それらはクラスターと呼ばれるようになりました。第36週は103名となりました。第36週以後はクラスター以外でも患者さんが複数見つかるようになったこと、及びこの疾患の臨床症状が強くないことが確認されたこともあり、当局は9月7日に感染患者の入院隔離を原則として中止しました。その後、第37週は62名、第38週は4日めまでで、わずか4名と患者数の増加が鈍ってきています。9月21日現在、回復した患者数も含めると総計で384名の患者さんが確認されています。クラスターは9

箇所となっています。これらはいずれも、島の東よりに位置しています。  
今後の感染の広まりがどうなっていくのか、現時点ではわかりませんが、綿密な経過観察が必要と思われます。

以下は全くの私見ですが、

ジカウイルスを媒介する蚊は、デングウイルスを媒介する蚊と同じ、ネッタイシマカです。これは世界の熱帯地域に蔓延しています。デングウイルスは症状が強いため、発症したら病院に行く人が多いと想像されます。しかし、ジカウイルスの場合、臨床症状があまり強くない（当地では発熱のある（あった）人は2/3ぐらい、あっても37.5度以下、有熱期も1~2日）、しかも、病院に行っても薬もなく、または薬は不必要で、経過観察となり、結局は自然治癒ということが多いことが知られるとなると、患者さんの受診行動が変化していくことが考えられます。つまり、発症しても病院に行かない人が増え、統計に乗ってこない患者数が増えていくのではないかと想像されます。特に、発展途上国など低所得者層が多い国ではこの傾向は強まるのではないかと考えます。ですので、統計上、患者数が減っていても、実際の患者数は統計に見るほどには減っていないということが起こりうる、もしくは既に起こっているのではないかと懸念されます。

そうした矢先、9月15日の時点で妊婦の患者数は11名との知らせを聞きました。この数は、そのときの患者総数360名に比べ、著しく多い数だという気がしました。発症者の33人に1人が妊婦ということになるからです。シンガポールの年間の出生数と中絶数から計算した場合、妊婦は年に5万人程度のはずですが、これは居住人口の100分の1以下にしかありません。これは、特にシンガポールでは妊婦の場合、体調が悪ければ（特にジカウイルスを心配したら）、医療機関を受診し、検査も政府負担で受けられるため、検査を受ける方が多いからかもしれません。逆に妊婦以外の方は受診率が低いから相対的に患者数に占める妊婦の割合が高くなったということなのかもしれません。もし、そうであるなら、逆にこのことを利用し、ジカウイルス感染症患者の真の患者数を割り出せるのではないかと気がします。

いずれにしても今後の成り行きを見守る必要があります。

